〈企画・制作／産経新聞社メディアビジネス局〉 PR

今日は みどりの日

公園は暮らしの根っこ？

足元で社会を支えるチカラとは

遊んだり、のんびりしたり、みどりや生き物とも触れ合える。そんな公園には、私たちの生活をより豊かに、持続可能なものにしていく役割があるって知っていますか。持続可能なまちづくりなどについて研究する佐々木葉教授が、ファミリーで活躍するインフルエンサーのHARUMIさんに意外な公園の機能や、これからの公園との向き合い方についてレクチャーしました。

自然を生かすがもしもに役立つ

佐々木　公園を利用する、というとどんなことが思い浮かびますか。

HARUMI　私は10年ほど前にマイホームを購入したのですが、もともと子どもたちが遊べるように、少し歩けば大きな公園があるような場所がいいと思って決めたんです。そういった背景もあって、育児の場の一つという意識です。

佐々木　確かに、遊び場や健康づくりの場としてのイメージがありますよね。でも公園にはそのほかに、人々の生活を豊かにする、みどりの力が備わっているんです。自然が持つさまざまな機能を「グリーンインフラ」として役立てようという動きが広まっています。

HARUMI　インフラという言葉は、ニュースなどで耳にします。でも公園などの自然にも関係する言葉とは知りませんでした。

佐々木　インフラはインフラストラクチャーという言葉の略で、生活を支える基盤を指します。道路や堤防もインフラの一つですが、コンクリートなどの人工物で固められたインフラは維持コストがかかるのに加え、激しい気候変動への対応力が低く、生活を守るには限界があるんです。そこで公園や自然の力を活かすことで、維持コストを下げ、気候変動にも柔軟に対応できるよう、社会基盤を整備し直そうという機運が高まっています。

HARUMI　グリーンインフラを使うと、具体的にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

佐々木　最近だとゲリラ豪雨が頻発していますよね。アスファルトで舗装された地面は、雨を浸透させにくく、川の氾濫につながる恐れがあります。公園の地面であれば水が浸透して、一時的に貯留させられるので、洪水を軽減できるんです。

HARUMI　土の地面って、植物が根を張っていることが大切なんですね。

佐々木　より雨を浸透、貯留することができるような植栽空間である雨庭を整備している公園もあります。京都市などでは道路の植栽周辺といった公共用地を、雨庭に変える取り組みも進んでいます。ご自宅の庭にも作ることができるので、ぜひ試してみていただきたいです。

HARUMI　虫を捕まえたりグローバーを探したり……。思い返せば、土があることで子どもたちも自然の大切さを知ることができています。一見小さな公園であっても、大きな仕事をしていて、守っていく必要がありそうです。

佐々木　木は枝の広がりと同じぐらいの範囲に、根を広げているともいわれているんです。土がある分、アスファルトと比べて草取りもしなければならないので、地域で協力して維持管理ができるといいですね。

HARUMI　災害と公園のつながりという観点では、避難場所としての機能が充実している公園は多いですよね。

佐々木　例えば、対談の前に一緒に歩いた中野四季の森公園は、避難場所としても設計された防災公園です。災害時の生活用水を取れる井戸や、仮設トイレに早変わりする「マンホールトイレ」などが整備されています。このように災害時を想定した公園は、かなり増えてきています。

HARUMI　かまどとして使えるベンチなどがある公園を見たことがあります。近所の公園にはどんな機能があるか、みんなで調べると面白そうですね。

インフルエンサー
HARUMIさん

早稲田大学理工学術院教授
土木学会第112代会長
佐々木 葉さん

JR中野駅からほど近くにある中野四季の森公園

まずは公園に関心を持つところから

佐々木　都市環境の緩和も、グリーンインフラを推進するメリットの一つです。地面や植物に浸透した雨水が蒸発して熱を逃がし、ヒートアイランド現象を緩和します。二酸化炭素を吸収する効果もあります。

HARUMI　気づいていないだけで、私たちの生活は普段から公園などにあるみどりに守られているんですね。公園がなくなってから後悔することがないように、子どもたちや周囲にも重要性を伝えていきたいです。このほかに、市民ができるアクションはありますか。

佐々木　まずは公園に興味を持って、積極的に利用することです。グリーンインフラを身近に感じて、その重要性を知ることが、普及のための第一歩です。

HARUMI　子どもと公園で遊んでいると、遊具などがなくても、自分たちなりの使い方で公園を満喫している様子にいつも驚かされます。もともとは遊び場としてのイメージしかありませんでしたが、子どもたちを見習って、型にはまらない公園の活用方法を探っていきたいです。

佐々木　公園内に菜園を作って、野菜を収穫したり調理したりといった食育活動を行っている公園や、子どもたちの遊びを補助したり見守ったりするプレイリーダーを配置している公園など、育児という観点だけでもユニークな公園が増えてきました。

HARUMI　自宅の庭でトマトやキュウリを栽培して、子どもたちに収穫してもらっているので、菜園を作るのにはかなり興味があります。公園が持つ可能性の大きさにわくわくしてきました。

佐々木　公園のあり方に、正解はありません。地域の公園に関わるみんなで議論して、時には失敗もしながら、地域の公園としての最適解を見つけていただきたいです。公園を介して、地域コミュニティの盛り上がりにもつながるでしょう。

この対談の詳細はこちら

Photo Lesson

最高の瞬間を残そう！

フォトレッスン

フォトグラファー
澤井 健太さん

公園で楽しそうに体を動かす子どもの笑顔は、何としても記録しておきたいところ。シャッターチャンスを逃さず、抜群の写真を撮るためのポイントを、フォトグラファーの澤井健太さんに聞きました。

Lesson POINT ❶

＼レンズを子どもの目線に合わせる！／

子どもの目線に合わせることで、躍動感のある写真が撮れます。おすすめはポーズを取ってもらうのではなく、カメラに向かって遊んでもらうこと。例えば、「カメラに向かって走ってきて！」というとすごく素敵な表情を撮影できることが多いです。

Lesson POINT ❷

＼日の光が柔らかい時間帯を狙う／

晴れているときがシャッターチャンスと思われがちですが、まぶしくて目を開けづらいことも。ぜひ積極的にカメラを構えていただきたいのが、光が斜めから差し込む午前中や夕方。日の光が強いときには、木陰なども活用してみましょう。

フォトレッスン動画はこちら→

2027年 国際園芸博覧会
GREEN×EXPO 2027 開催

花や緑との関わりを通じて、持続可能な社会のあり方を提案する博覧会。会場には1000万株の花や緑が集まるほか、持続可能な社会に貢献する最新テクノロジーの展示、いけばなや盆栽といった日本伝統文化も堪能できます。自然と共生する未来の生き方を、考えてみましょう。

- 開催場所　旧上瀬谷通信施設（神奈川県横浜市）
- 開催期間　2027年3月19日（金）～9月26日（日）
- 主　　催　公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

令和6年度 第40回
「都市公園等コンクール」国土交通大臣賞

都市公園等コンクールは都市公園等の設計、施工、材料・工法・施設、管理運営について特に優秀なものを表彰し広く紹介しているコンクール。

日本公園緑地協会のホームページでは国土交通大臣賞をはじめ、すべての賞の受賞作品・受賞団体を紹介している。

https://www.posa.or.jp/

受賞作品・団体紹介

設計部門

■ 花の拠点 はなふる

惠庭市（花の拠点 はなふる）

受賞団体 ● 高野ランドスケーププランニング株式会社 ● 惠庭市 ● 惠庭花のまちづくり推進会議

■ ひろしまゲートパーク

広島市（ひろしまゲートパーク）

受賞団体 ● 大成建設株式会社一級建築士事務所

材料・工法・施設部門

■ 権現堂2号公園 プレイウォール

幸手市（権現堂2号公園）

受賞団体 ● 株式会社アンス

管理運営部門

■ 生物多様性の保全と体験に特化した公園管理

藤沢市（遠藤笹窪谷公園）

受賞団体 ● 藤沢市 ● 横浜植木株式会社